

Actian Zen v15 SP2 修正履歴

このリストには、Zen v15 および Zen v15 SP1 以降の Zen 製品に加えられた修正および変更が記録されています。

v15 SP2 での機能強化と問題の修正

追跡番号	機能 / 問題の説明
PSQL-10162	1 つのトランザクションで多数の書き込み操作を行うとき、エンジンが小さなキャッシュで構成されている (Workgroup エンジンなど) 場合にはパフォーマンスが低下することがある。
PSQL-10092	LONGVARCHAR 列を持ち、ブランク トランケーションを有効にして定義されたテーブルでは、空白を埋め込んだ LONGVARCHAR 値がある行を更新すると、誤ったステータス 2 を返すことがある。
PSQL-10085	文字列以外のデータを指定した GROUP BY で CASE 式を使用すると、エンジンが応答しなくなることがある。
PSQL-10049	LIKE で使用する定数の末尾にエスケープ文字が指定されていると、すべての行が返される。
PSQL-10048	DELETE ステートメントを含むストアド プロシージャを繰り返し呼び出すと、ステータス 9 が返されることがある。
PSQL-10022	ワイド文字対応 ODBC ドライバーとの接続を使用して作成されたプロシージャを呼び出すと、列名が正しく表示されないことがある。
PSQL-10021	Workgroup エンジンがインストールされているときに、DTI/DTO の IsServerEngine プロパティが間違っていて True を返す。
PSQL-9995	CHAR_LENGTH() は、65500 バイトを超える LONGVARCHAR データに対してエラーを返す。
PSQL-9964	REPLICATE() 内で CAST() を使用して、LONGVARCHAR に 65500 バイトを超えるデータを入れると、正しくない結果が返される。この場合、REPLICATE が操作できるのは 65500 バイト値のみであるため、エラーが返される必要がある。
PSQL-9963	1 つの INSERT を使用して、31745 ~ 32750 個の Unicode 文字を LONGVARCHAR に挿入すると、データが 31744 文字に切り詰められる。文字数の合計が許可される最大文字数 32750 (65500 バイト) より小さい限り、挿入は成功する必要がある。
PSQL-9958	現在、システム上に複数のライセンス (アクティブまたは無効) が存在している場合、エンジンがライセンスの認証解除を行おうとすると、ステータス 7317 が発生することがある。
PSQL-9937	複数のステートメント ハンドルがローカルの同じ一時テーブルを共有している場合、" テーブルまたはビューは既に存在します " または " テーブルは使用中です " というエラーが発生する。
PSQL-9904	クエリで、長さ 0 の VARCHAR を指定する CAST を使用した計算フィールドに対して ORDER BY を使用すると、SQL エンジンがクラッシュする。
PSQL-9891	列のサイズよりも長いパターンが指定された LIKE を実行すると、正しくない結果になることがある。
PSQL-9880	クエリでインデックス付きの列に対して複数の LIKE 制限を使用すると、正しくない結果になることがある。
PSQL-9855	文字列の列を、定義されている列長よりも長い文字列定数と比較すると、正しくない結果になることがある。
PSQL-9852	結合条件で集計関数を使用した場合に、エラーを返すのではなくエンジンが応答しなくなることがある。
PSQL-9835	前方のみのカーソルを使用する PARTITION クエリで、行セットのサイズが 1 より大きいと、正しくない結果になることがある。
PSQL-9834	INSERT ... SELECT で、NLONGVARCHAR の列に LONGVARCHAR を挿入する (またはその逆) と、SQL エンジンが応答しなくなることがある。

追跡番号	機能 / 問題の説明
PSQL-9818	BUTIL の /pagecompression オプションが機能しない。
PSQL-9788	SQL ALTER TABLE ステートメントでは PCOMPRESS キーワードが無視される。
PSQL-9760	ワイド データ型の列のインデックスを使用するサブクエリを最適化すると、SQL エンジンが応答しなくなることもある。
PSQL-9751	物理ディスクのセクター サイズが 4 KB より大きいドライブにある、32 KB 未満の Btrieve ファイルにアクセスすると、Workgroup エンジンからステータス 2 (I/O エラー) が返されることがある。
PSQL-9734	ZenCC および DDF Builder のウィンドウ [設定] ダイアログでは、"Zen" ではなく "PSQL" が表示される。
PSQL-9733	結合構文を使ったクエリで同じエイリアスが複数回使用されていても、エラーが返されない。
PSQL-9731	LONGVARCHAR 列で集計関数を使用すると、正しくない結果になることがある。
PSQL-9721	Windows クライアントで、バージョン呼び出しを行うとアクセス違反が発生することがある。
PSQL-9717	SQL クエリが GROUP BY に指定された列で最適化を行う場合、その列が Btrieve ヌル キーであると、クエリが正しい結果を返さないことがある。
PSQL-9715	新しい Linux ディストリビューションでは、Linux インストールで actianzen svc を /etc/init.d に追加できない。
PSQL-9703	エンジンまたはキャッシュ エンジン サービスを実行していないときに、ZenCC が応答していないように見えることがある。
PSQL-9679	複数の自己結合を使用するクエリで、自己結合した各テーブルに LIKE 制限を適用していると、正しくない結果になる場合がある。
PSQL-9652	DOUBLE 型のパラメーターを使用するパラメーター クエリを実行すると、SQL エンジンが応答しなくなることもある。
PSQL-9636	クエリ内の LAG 関数で VARCHAR 列または LONGVARCHAR 列を使用していると、正しくない結果になる場合がある。
PSQL-9607	SQL エンジンで、外部キーが Btrieve ヌル キーを使用することができた。
PSQL-9590	ORDER BY を含むテーブル サブクエリの SELECT では、結果が正しい順序で返されないことがある。
PSQL-9341	PARTITION BY を使用したクエリの結果をスクロールするときに問題が発生する。
PSQL-8358	多数のクライアント アプリケーションが同時に終了したり応答しなくなったりすることが原因で、エンジンが応答しなくなることがある。

v15 SP1 での機能強化と問題の修正

追跡番号	機能 / 問題の説明
PSQL-9609	PARTITION BY を使用したクエリで、文字列の列に対してグループ集計を使用すると、SQL エンジンがクラッシュするか、または正しくない結果になることがある。
PSQL-9590	ORDER BY を含むテーブル サブクエリの SELECT では、結果が正しい順序で返されないことがある。
PSQL-9589	ADO.NET インストーラー : Workgroup Engine をインストールして実行している場合、PoSh スクリプトは PropertyNotFound の例外を返す。
PSQL-9570	OVER 句で DISTINCT を使用したり、OVER 句なしで LAG を使用したりしてもエラーが返されない。

追跡番号	機能 / 問題の説明
PSQL-9569	同一システム上に VS 2019 と VS 2022 がインストールされている場合、ADO.NET プロバイダーは VS 2019 との統合に失敗する。
PSQL-9550	データ ファイルに Btrieve スル キーが定義されている場合、ALTER TABLE が失敗することがある。
PSQL-9541	ADO.NET プロバイダーは、" 通信リンクに失敗しました " エラーを返すことがある。
PSQL-9450	空の結果セットに SQLSetPos() を使用した後に、長いバイナリ データを挿入すると、ODBC クライアントが応答しなくなることがある。
PSQL-9439	同じクエリ内で使用されているテーブル名を SELECT の列エイリアスとしても使用していると、エンジンが応答しなくなることがある。
PSQL-9401	開いているファイルに GUI の Maintenance ユーティリティからアクセスしようとすると、" このファイルは使用されています " と表示される。
PSQL-9395	テーブル サブクエリでカルテシアン結合を使ったビューを作成すると、エンジンが応答しなくなることがある。
PSQL-9390	ダブルバイト文字環境の一部の列で、" 制約は既に定義されています。テーブルを作成できません " というようなエラーが返されることがある。
PSQL-9341	PARTITION BY を使用したクエリの結果をスクロールするときに問題が発生する。
PSQL-9303	キャッシュされたストアード プロシージャで行を更新すると、ステータス 80 が返される場合がある。
PSQL-9296	SQL クエリに IN を使用する複数の関連サブクエリが指定されていると、ステータス 5 が返されることがある。
PSQL-9291	SELECT FOR UPDATE を指定した場合、使用可能なインデックスが部分的にしか制約に一致していないと、ステータス 84 が返されることがある。
PSQL-9284	3 方向に分岐する IF 式で REPLACE() スカラー関数を実行していると、エンジンが応答しなくなる。
PSQL-9280	4KB を超える物理セクター サイズのハード ドライブを搭載するコンピューターに Zen v15 をインストールすると、エンジンが応答しなくなることがある。または、そのようなドライブにあるファイルへアクセスすると、ステータス 94 が返される、あるいはシステム エラー：620.0.998 が発生することがある。詳細については、 https://www.agtech.co.jp/action/faq/15-220101/ を参照してください。
PSQL-9259	ALTER TABLE を使用して、インデックス付きの文字列の列から大小文字無視または ACS の属性を外すように変更した場合、X\$Index と Btrieve ファイルのインデックスを一致させるために更新する必要がある。
PSQL-9252	v1 データベースへログイン中に、v2 データベースで 20 文字を超える名前のテーブルを作成しようとすると " テーブル名が長すぎる " というエラーが発生する。
PSQL-9251	ODBC で複数のステートメントをバッチ実行すると、すべてのステートメントの実行を完了した後の最初のステートメントで間違っ て SQLPrepare を呼び出す。そのため、すべてのステートメントが正常に実行されてもエラーになることがある。エラーは最初のステートメントによって決まる。
PSQL-9247	列のデフォルトとして USER キーワードを指定した場合、エンジンを再起動した後、このクエリは失敗する。
PSQL-9245	以前に ACS を使用して定義された列に対して DEFAULT を指定するよう、ALTER TABLE を使用して列定義を変更した場合、列プロパティが変更されない。メモ：DEFAULT 属性と ACS 属性の両方が必要な場合は、どちらも ALTER ステートメントに含める必要があります。
PSQL-9231	ACS を使用して定義されたインデックス付きの列に対して DeleteExtended を実行すると、SQL エンジンが応答しなくなる。
PSQL-9212	64 ビット JDBC コンポーネント w64pvjdbc2.dll で共有メモリを使用すると、アクセス違反になる。

追跡番号	機能 / 問題の説明
PSQL-9145	Embarcadero RAD Studio 11 のサポートが追加された。
PSQL-9116	Btrieve 2 でシステム データ / システム データ v2 の値にアクセスできるようになった。
PSQL-9114	単一と検索の両方の case 式を含むクエリを実行すると、エンジンが応答しなくなることがある。
PSQL-9045	ORDER BY を含むテーブル サブクエリの SELECT のパフォーマンスが向上した。
PSQL-8944	セキュリティで保護された v2 データベースでストアド プロシージャを繰り返し呼び出すと、"ユーザーが承認されていません" が返されることがある。
PSQL-8942	SELECT に指定されている結合の条件が decimal 型の列 = real 型の列である場合、一致する行が見つからないことがある。
PSQL-8939	OptimizeInnerJoin を YES に設定し、パラメーターを使用してストアド プロシージャを呼び出すと、SQL エンジンが応答しなくなることがある。
PSQL-8910	データ ファイルのオーナー ネームが "-" で始まる場合、ロールフォワード ユーティリティで構文エラーが返される。
PSQL-8905	TAR ファイルを使用して Linux に以前にインストールした Zen をアンインストールした場合、一部のファイルが残ったままになる。
PSQL-8898	ファイルに空のオーナー ネームを設定しようとすると、ステータス 51 が返される。
PSQL-8867	データ ファイルにオーナー ネームが指定されている場合、ロールフォワード ユーティリティからステータス 112 が返される。
PSQL-8818	MKDE トレースで生成されるトレース オペレーションの In/Out カウンターが一意でないことがある。
PSQL-8776	ACS が指定された列でクエリを実行した場合、完全には最適化されていないことがある。
PSQL-6256	FileCreate() では、作成操作に 1 つの単一セグメント キーしか含めることができない。複数セグメント キーや追加キーが必要な場合は、IndexCreate() を使用して追加する必要がある。
PSQL-5970	ALTER TABLE の ADD 句で DEFAULT 式を使って列を追加した場合、テーブル内のすべての行に対して式を実行するようになりました。
PSQL-5166	ユーザー定義のプロシージャからシステム ストアド プロシージャを呼び出すことができる。
PSQL-4662	キーを削除した直後にファイルを最適化しようとすると、ステータス 125 が返されることがある。
PSQL-3907	同じ名前の列がある複数のテーブルにアクセスするクエリで、その列のエイリアスがクエリに指定されていないと、正しくない結果になる場合がある。
PSQL-1896	BUTIL -STAT および StatExtended を実行する対象ファイルのエクステンションファイルが 32 個を超える場合、正しい結果が返されない。

v15 での機能強化と問題の修正

追跡番号	機能 / 問題の説明
PSQL-8921	Btrieve アプリケーションを Windows サーバー上でローカルに実行すると、パフォーマンスが低下することがある。
PSQL-8908	一部の Raspbian 環境では、SELECT @@VERSION を実行した場合に正しくない OS ビットが返されることがある。
PSQL-8647	クエリに UNION、サブクエリに ORDER BY を含んでいる場合、"ステートメントに UNION を含んでいる場合は、ORDER BY の項目を選択リストに指定する必要があります" エラーが返されることがある。

追跡番号	機能 / 問題の説明
PSQL-8602	ExecuteNonQuery() を使用して、セミコロンで区切られた値を持つ複数の行を挿入した場合、ADO.NET プロバイダーは「影響を受けた行数」として正しくない値を返す。
PSQL-8601	ExecuteNonQuery() を使用して、セミコロンで区切られたステートメントによって複数の行を挿入した場合、ADO.NET プロバイダーは「影響を受けた行数」として正しい値ではなく 1 を返すことがある。
PSQL-8600	SQLGetInfo() を InfoType=SQL_ASYNC_NOTIFICATION で実行してエラーが発生した場合、エンジンが応答しなくなることがある。
PSQL-8593	ADO では、クエリに ORDER BY が含まれていると Recordcount (レコード件数) に -1 が返る。
PSQL-8571	AUTOCOMMIT がオフになっている場合でも、DDL ステートメントの実行後に SQL トランザクションが自動的にコミットされる。
PSQL-8506	非常に大きな値の UBIGINT に対して CAST() を実行した場合、正しくない結果が返されることがある。
PSQL-8501	CREATE TABLE などの DDL ステートメントが指定されたストアードプロシージャを実行する SQL 接続が多数ある環境では、データベース エンジンが応答しなくなることがある。
PSQL-8452	ROUND() などの一部のスカラー関数で浮動小数点値を処理すると、正しくない結果が返されることがある。
PSQL-8437	BUTIL は、大きな可変長レコードをエクスポートするときにステータス 22 を返すことがある。
PSQL-8427	アクティブセッション中にネットワーク接続が切断された場合、OLEDB の例外は try-catch で処理されない。
PSQL-8420	SELECT の式に UNION と ORDER BY が指定されている場合、"UNION を伴う ORDER BY では、列名への参照は使用できません" を返さないで応答しなくなることがある。
PSQL-8416	DELETE クエリを実行したとき、削除する行が見つかる場合より見つからない場合の方が遅くなることがある。